



かすりすと

十八模様は久留米かすりのシンボルとしてあらゆるシーンに活用していきます。



国分町在住
松藤 浩子さん

長袖、半袖と季節毎に袖を
付け替えるというお母さん形見の絆

THE KASURIST 私の流儀

絆を愛し、独自のこだわりを持つ人々を
シリーズでご紹介します

今から5年前、古賀さんは両親の介護をきっかけに仕事を辞め、福祉サービスの仕事をパートでする傍ら、好きなことをしたいなあ、と考えていた矢先に、地場産くるめでの「絆小物教室」を知り、絆の虜になったそうです。これまで意識しなかった「絆」が家の中で輝いて見えたそうです。古賀さんのお母さんとお祖母ちゃんから譲り受けた絆は当時でも高価なものだったそうです。その絆は現在、古賀さんのお洒落なスカート、ベスト、ポーチに変身し、親子三代にわたって絆が息づいています。

仕事上、デイサービスのお年寄りとお話することが多く、絆はカゴウの会話の材料になるとのこと。小物づくりを通して、お年寄りのリハビリや人生の相談事など深く関わりながら楽しく仕事をしていらつやいます。最近では絆とビーズとの組み合わせが面白く、バッグやポーチづくりを皆さんで楽しんでいるそうです。「この夏の暑さには絆のもんべがい。もちろん裾短めで、お洒落に。若い男性にもジーンズ感覚で、絆を着こなす「かすりすと」を増やしましょうよ笑」



小郡市在住
古賀裕子さん

「私と絆との出会いは、44年ぐらいい前になります。」と語る松藤さんは、工業用ミシン販売を手がけるご主人の手伝いをしていて、絆の裁断を頼まれたのが絆との出会いでした。そんな裁断の内職の傍ら13年間、地元京町公民館で絆のリフォームを頼まれ、着物の仕立て直しや小物（帽子）の創作などを教えていらつやいました。

昨年1月に現在の国分町に引っ越され、やっと自分の時間がもてるようになりました。現在は端切れを使い、洋服や小物を中心とした創作リフォーム教室を開いていらつやいます。

地場産くるめとの関わりも25年前の開業当初からモニターとして参加しています。昨年のかすりすとの募集もいち早く申込み、集いではおかげさまで母の形見の絆の洋服でベストドレッサー賞をいただきました。

今、松藤さんは、友禅染に挑戦されています。絆の洋服にワンポイントのあしらいに絵を描けたらと。そんな思いがご自身の創作意欲をかき立てています。

CONTENTS

1p THE KASURIST～私の流儀～

2p 久留米かすり秘話 vol.2
蠟カス～かすりとはぜ 藍ローソク
・「かすりすとの集い」はぜ並木散策

3p 3p 絣織元登場
野村織物 織元 野村哲也さん
池田絣工房 織元 池田光政さん
・広川かすり祭

4p 4p Pro-shop of Kasuri Style
・絆着こなし術 吉永美佐子さん
・地場産くるめSHOP INFORMATION

久留米かすり秘話
VOL.2

「蠟かすゝろうかすゝ」



蠟かすを入れる口



蠟かす



久留米かすりは糸と糸が織りなす筑後地方独自の服飾文化ですね。藍染めはその紺に命を吹き込む血液みたいなもの。藍の染まり方次第で紺の仕上がり方も決まります。「ろうかす」はそんな藍染めには欠かせない材料のひとつです。では、このろうかすを何に使うかというと、藍がめの保温材として、この地方では10月末から4月中旬まで藍の活性を手助けしてくれる燃料として使われていました。気温が10度を下回るとろうかすを炊き藍がめの中を20〜23度ぐらいに保ちます。

ろうかすはハゼロウの絞りかすで、若干の油脂分を



蠟燭と藍の出会い

残っていて、保温材として昔から使われていました。特に久留米にはハゼの実を取り、蠟燭の原料にしました。その絞りかすはリサイクル燃料として新産業の下支えをしていたのです。電気よりも経済的で藍がめを適正な温度に保つ現代に伝わる独自のクリーンエネルギーだったのです。

紅葉の耳納北麓を散策しませんか

第2回「かすりすと」の集い ご案内 かしりすとの会員様には
あらためてご案内を差し上げます

「かすりすと」の集い IN ハゼ並木

とき:平成19年11月17日(土) 受付11:30 解散16:00

対象:かすりすと会員の皆様 参加費:1,500円(昼食・飲み物付き)

集合場所:スパリゾートホテル久留米 久留米市山本町耳納1-1

第一部

11:30 受付開始

12:00 開場 12:10 開会 ●会食(昼食)

●かすりすとファッションショー(約40分)

会場の皆さんの投票により「ベストドレッサー賞」等の賞を決定します

●ミニミニ講演

13:40 ●「ベストドレッサー賞」などの結果発表 & 賞品プレゼント

14:00 第一部閉会

第二部

14:10 ●ハゼ並木散策←→永勝寺

集い参加会員の自由参加

参加人数に応じグループで散策(ガイド付き予定)

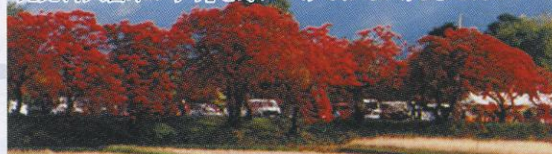
散策途中でハゼをバックにパチリ

※お茶(野点)呈茶をコース内で企画中です(有料)

16:00 現地解散

※ホテルの風呂(露天風呂)もお勧めです。お風呂はオプションです

久留米の季節の風物詩「柳坂曾根のハゼ並木」の紅葉の時期に、久留米の魅力・自然・季節感を肌で感じながら、久留米かすりファン倶楽部『かすりすと』の会員交流会です。また、ハゼ並木・永勝寺などの散策、新たな久留米の魅力を発見、『久留米かすり』を身につけておでかけしませんか!



かすり 緋織元登場 創る



のむらおりもの
野村織物(有)
織元 野村哲也さん
八女郡広川町大字新代1745
TEL 0943-32-0018



いけだかすりこうぼう
池田緋工房
織元 池田光政さん
筑後市大字久富1840
TEL 0942-53-2416

明治31年創業の野村織物(有)は現社長野村哲也さんで4代目。100有余年を数えます。専務の野村憲一郎さんにお話を伺いました。



「先代のとき、うちはすべて機械織りに変わりました。私が家業を継いだ昭和48年、22歳の時でしたが、藍染めを復活させました。故中尾 美氏に

藍染めを習い、久留米かすりの技術の伝承の大変さを身をもって経験しました。以来先人達が試行錯誤して築いたデザインを継承し、残して行くのが自分の使命と、思っています。



第17回 久留米かすり祭
久留米 他 地元特産品 お楽しみ抽選会
9月15日・16日
1回目 12:00
2回目 16:00
逆瀬ゴットン館 水車祭同時開催
駐車場より無料送迎バス運行

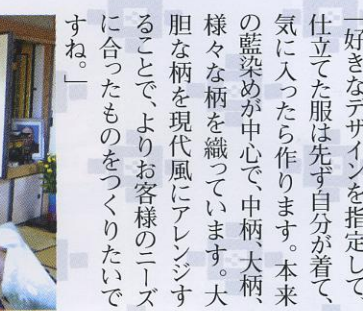
野村織物の特徴 「うちの緋の特徴は、パターン(幾何学模様)のデザインが得意です。工芸染織展や伝統工芸展は私にとっては年に一度の冒険の場です。括りから織りまで、ちょっとしたミスも織るときまでわからない。ごまかしのきかない仕事です。一回手

「うちの工房は、手織りのみでやっています。84歳の母を含め、28歳から74歳まで織り子さん10人、藍染めの職人さん2人で工房を切り盛りしています。3世代が伝統の技術を伝承しながら、切磋琢磨しています。括り以外は、すべて自社生産ですね。」



※工房では、年間イベントとして5月・11月の「ちくこの里めぐり」や、普段も年中無休でギャラリーを開放しています。お電話でご確認の上、お気軽にお越し下さい。

「好きなデザインを指定して仕立てた服は先ず自分が着て気に入ったら作ります。本来の藍染めが中心で、中柄、大柄、様々な柄を織っています。大胆な柄を現代風にアレンジすることで、よりお客様のニーズに合ったものをつくりたいですね。」



第17回 広川町かすり祭 日時/平成19年9月15日(土)・16日(日) 会場/広川町産業展示会館

1階

- 広川町伝統工芸品・特産品の販売
竹製品、八女茶、茶飴、緋などの販売
- ～200年の伝統を超えて、今新しい未来へ～
新風「久留米緋展」
広川町の織元たちが緋の新しい魅力づくりに挑戦した新風「久留米かすり」の作品展示。

屋外ステージ

- 広川中バスバンド演奏 (9/15)
- 久留米かすりを使ったファッションショー (9/15・16)
- 斗和太鼓の演奏 (9/15)
- 下広川保育園 園児の踊り (9/15)
- 第15回久留米緋創意工夫展表彰式 (9/16)
- その他ステージイベント(大正琴・三味線・くるにわか等)

2階

- であい、ふれあい、広場(緋展示即売会場)
地元緋織元が、ワンピース・シャツ、バック、反物はぎれなどの「久留米かすり」を展示。格安にて販売をおこないます。
- 緋のオーダーメイドコーナー
あなただけの一着をオーダーしませんか。
- 藍染め体験コーナー
ハンカチのろうけつ染
ハンカチなど藍染め体験
- ミシンキルトコーナー
緋のハギレを使って小物などをつくりませんか。

問い合わせ かいり祭実行委員会(広川町産業展示会館内) TEL 0943-32-5555

主催/かいり祭実行委員会・広川町商工会・広川町・広川町観光協会・久留米緋広川町協同組合
後援/九州経済産業局・福岡県・久留米地域地産産業振興センター・久留米緋協同組合・広川町教育委員会
福岡八女農業協同組合・西日本新聞社・朝日新聞社・読売新聞西部本社・毎日新聞社・西鉄バス久留米(株)
堀川バス(株)・JR久留米駅・(株)日本ヴォーグ社・リッカー久留米店・(財)日本手芸普及協会・NHK福岡放送局
九州朝日放送・TVQ九州放送・RKB毎日放送・FBS福岡放送・TNCテレビ西日本・FM福岡・ドリームスエフエム放送(順不同)

Pro-shop of Kasuri Style 風のおくりもの



久留米ほとめぎ商店街「一番街」の中にある、「風のおくりもの」は和のテイストを持った数多くのグッズを集めたギャラリーです。中でも久留米かすりはアイテム数も一番多く、このギャラリーの看板商品です。

オーナーの赤司貴代子さんは「今年で4年目になります。それまでは緋に袖を通したことがなかったんです。お客様が喜ぶものをと集めてきたのが、久留米かすりなんです。それからその着心地のよさにすっかり緋のファンになりました。」

赤司さんは、お店のホームページもこの3月に開設され、ネットショップにも積極的に取り組んでいらっしゃいます。「私自身、久留米生まれの

久留米育ちなので、地域に対しての思いがあるんです。特に地場のものを広げていきたい、その思いが一番強いのが緋ですね。」キャラクター「久留米ほとめぎちゃん」も赤司さんたちが中心となって立ち上げたグループ「イキイキ会」から生まれました。「若いお客様に緋の服を買っていただいたときに、これで緋とご縁を結ばせていただいたなあと思う瞬間が一番うれしいですね!」久留米かすりには、井上伝から連なる久留米の空気、人の息づかいが折り込まれています。と赤司さんは熱く緋を語られました。

古布作家「高木福枝」秋の新作展
9/14~10/8



日本茶カフェコーナー

かすりすと
読者プレゼント

「かすりすと」見たというお客様にカフェご利用券(200円)を差し上げます。



久留米
ほとめぎちゃん

風のおくりもの

久留米市東町31-7(一番街)

TEL0942-46-4767 FAX0942-46-4768

URL <http://www.kazenookurimono.jp>

営 10:30~19:00 休 毎週火曜日



「倉庫としてうちが借りていたんですが台風で瓦が壊れたり(瓦は特注の瓦だそう)で、管理に費用がかさむと言うことで、取り壊しの話が

「私自身は、かすり1年生というか、洋服はあまり持っていないんですよ。ただ白緋のブラウス、小物やコサージュなどはいくつかお気に入りを持っています。」とおっしゃる吉永さん。緋との出会いは形見の緋の反物だったそうです。かすりを意識するようになったのはかすりすとなつて、生産現場の大変さ、奥の深さを見聞きしてからです。

「緋は、実際に身につけてはじめてその心地よさを体感します。涼しくて気持ちいい素材です。だからもつと若い人にも着て欲しい。それにはやはり若い人が好むデザイン性を重視した斬新なフォルムが欲しいですね。」吉永さんが勤務する久留米市日吉町、桶病院の前には明治の初年に建てられ百数十年の緋の歴史を刻む煉瓦造りの「国武緋倉庫」があります。



レンガ倉庫の前で
愛用の白緋のブラウスを着て

「かすりを意識するようになったのは生産現場の大変さ、奥の深さを見聞きしてから」

特別医療法人 理事

吉永 美佐子さん

久留米市日吉町115

TEL.0942-35-2725

FAX.0942-31-1318



吉永さんの娘(ぬいぐるみデザイナー)のアイデアとデザインで生まれた緋のキャラクター「アロガ」と「シヨット」

地場産くるめSHOP INFORMATION



ふるさととは、頑張り屋です!

地場産くるめ

財団法人久留米地域地場産業振興センター

小旅行に便利でおしゃれな「緋バッグ」

夏の暑い日差しが和らいでくれば、出かける機会も多くなります。秋空、秋風に誘われて遠出をしたくなります。温泉をもとめて大分、食べ物をもとめて長崎、景色をもとめて宮崎、と…。そんな時少し大きめのバックがあれば重宝します。布製のバックは大きくても軽く、女性のお出かけには最適です。今年は花柄の緋をモチーフにした新作を入荷しています。サイズも、小さいものから少し大きめのものまで取り揃えています。お客様自身に、また贈り物にもきっと喜ばれるのではないのでしょうか。お誘い合わせてご来店ください。



TEL. (0942) 44-3700

FAX. (0942) 43-1020

HP. <http://www.kttnet.co.jp/jibasan> ※展示即売場コーナーは地場産くるめ2Fにございます。